

# 企画展示

## 「一書に曰く」=もうひとつの日本史

「失われた歴史書」により日本の古代史を検証する

11月17日（金）～1月17日（水）

日本最古の歴史書といわれている「日本書紀」には、いまでは失われた歴史書から引用したと思われる個所が多数あり、その箇所には必ず「一書に曰く」という文言が表記されています。このことは、我国には、失われた歴史書が過去に多数存在していたことを示唆しています。

多くの学者が、この失われた歴史書を探求していますが、その過程で「もうひとつの日本史」の存在に言及した古史古伝と呼ばれる歴史書の存在が浮かび上がっています。今回の企画展では、この「発見」された歴史書=古史古伝を中心にこれまでの通史を見直した文献、反対に通説を踏まえた基本的文献を紹介しています。また、古史古伝を題材にした小説についても紹介しています。古史古伝については極めて偽書の疑いが濃いといわれていますが、この機会に改めて古代史を検証してみたいかでしょうか。

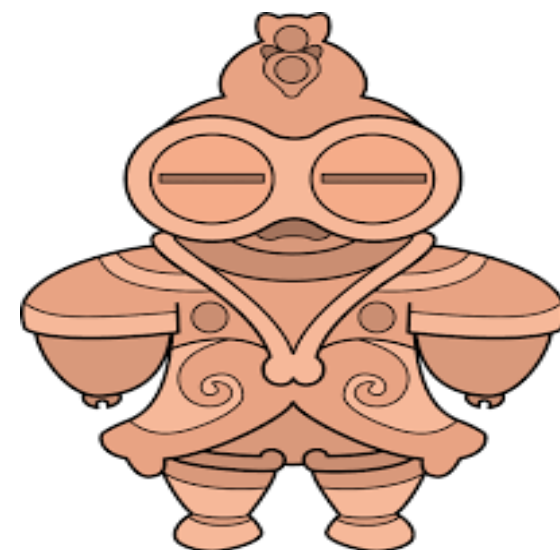
# 古史古伝は偽書か、激しい論争が展開される

失われた歴史書を探求する過程で、多くの歴史書の存在が浮かび上がりました。そのなかには、**古史古伝**といわれる一連の歴史書があります。これは、「日本書紀」や「古事記」より古いとされている文書でその多くが「偽書」の可能性が高いといわれています。しかし、その歴史書全体が疑わしいとしても、その基となった何らかの事実は存在したのではないかと反論する研究者もあり、真贋論争はいまも燻っています。

## 【代表的な古史古伝】（関係図書は別表のとおり）

つがるそとさんぐんし  
「東日流外三群誌」

神武天皇（初代）の大和征服に敗れ津軽に亡命した前統治者  
ながすねひこ あびひこ  
長髓彦・安日彦兄弟の子孫が東北地方に独立国を築いた経過を記した歴史書、文献中に邪馬台国等の記述が存在。青森県の民家から発見された「和田家文書」の一部であり、この歴史書を巡って歴史学者の古田武彦氏と安本美典氏との間で激しい論争が繰り広げられた。



### <sup>くかみ</sup> 「九鬼文書」

中臣氏の子孫である九鬼家に伝わる歴史書。古代出雲王朝の存在と正当性を主張。神武以前のウガヤフキアエズ朝と呼ばれる王朝にも言及しており、竹内文書との関係性も指摘されている。

### 「竹内文書」

古代豪族の子孫である竹内家に伝わる歴史書。漢字以前の古代日本文字「**神代文字**」で書かれている。現在の天皇家は、神武天皇よりもさらに52代遡るウガヤフキアエズ朝の末裔であるとして、その初期の統治範囲は世界全体に広がり、航空機や超金属の所有にも言及している。戦前の新興宗教弾圧の過程で偽書とされ、押収された原文は空襲により殆どが消失されたとされている。

### 「宮下文書」

富士山麓の旧家宮下家に伝わる歴史書。秦の始皇帝の命により渡来した徐福が書いたとされ、神武天皇以前に富士高天原王朝が存在したと記している。

### <sup>うえつふみ</sup> 「上記」

鎌倉時代の豊後(大分県)の国主、大友氏家に伝わる歴史書。**神代文字**で書かれており、九州における神武以前のウガヤフキアエズ朝の歴史を綴っている。歴史以外に当時の産業・科学にも言及しているのが特徴である。

ホツ マ ツタエ  
「秀真伝」

1966年に神田の古書店で偶然発見された歴史書、「ヲシテ」と呼ばれる**神代文字**で書かれており、その文章は五七調の長歌体 40 章によって構成されている。神武以前の天皇家の歴史や当時の様々な生活様式が記述されており、研究者によっては、「古事記・日本書紀」の基となった歴史書ではないかといわれている。

※「一書に曰く＝もう一つの日本史」[ブックリストはこちら](#)です。